



## 年頭のごあいさつ

北海道林産技術普及協会

会長 高橋二郎

平成3年の新春、明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族ともどもご健勝で、新しい年をお迎えになったこととお喜び申し上げますとともに、今年も皆様にとって良い年でありますように、心からお祈りしております。

さて、昨年は、3年つづきの好況で、木材需要の大層をなす住宅建築着工もほぼ前年並みの水準を維持しました。しかし木造率は下がったままでしたし、物流が活発だった割には収益は思ったほど上がりませんでした。また、石油価格の高騰、高金利の反面株の暴落、円高など、先行きを考えると手放しでは喜べない年でもありました。現在、中東情勢はきわめて厳しい状況を迎えておりますし、12月22日に閣議決定した平成3年度政府経済見通しによると、原油高や、実質金利の高止りなどで内需の伸びが鈍化し、私共の関心の的である民間住宅建設の伸び率はマイナスに転じると予想しています。

一方、木材需要の外材依存度は年々増加しており、全国で73%程度、本道でも50%を超えようとしております。問題なのは、原木輸入から製品輸入へのシフトの速度が早まっていることです。木材の輸入全体から見ると、製品の輸入の割合はまだわずかなものですが、製品輸入だけ見ると年々倍増しており、今後この傾向は一層加速される見通しです。さらに見逃せないのは、各国とも日本の市場に合わせて高品質の製品を安く輸出してきていることです。ことに、道産広葉樹にとってはもはや傍観できない状況になっています。国産材は国際流通から見ても、それになじむ価格でなければ相手にされません。

業界はいま、このような状況を踏まえて、いかに国際競争に立ち向かうかを問われているのです。学校建築の木造化を始め幅広く木の良さが見直されてきている一方、優れた品質の製品を、より安く、安定的に供給することが求められており、これに的確に対応できないと木材需要そのものの減退を招きかねない懸念があります。足腰の弱い我が業界としては、行政面での手厚い援護と試験研究機関のご指導、ご支援をいただきながら、精一杯の自助努力をして行かなければと、あらためて感じております。

本協会も、このような大きな流れに應えるため、製品コストの低減、品質管理システムの構築、高度加工化、需要の掘り起こしなど、関係機関とともに、勉強会、講習会等数多く企画し、皆様のお役にたきたいと考えております。何なりとご要望、ご提言をお寄せください。

「木と暮しの情報館」は、相変わらず年間2万人近い人が来館され盛況に推移しているほか、活動の一環として「北海道優良木質建材カタログ集」を発行し、全道の工務店、道・市町村の建築関係部門などに無償配布し、大変ご好評をいただきました。また、全国でも例を見ない「木製屋外施設展」を、4か月のロングランで実施し、試験場の40周年記念に華を添えることができました。新年度も、数多くの事業が計画されておりますので、会員をはじめ関係者の皆様の特段のご支援をお願いする次第です。

今年は、記録的な暖冬とか、珍しく雪のないお正月をお迎えの方もあろうかと思ひます。企業経営にとってもホットな年でありますようにお祈りし、新年のごあいさつとします。